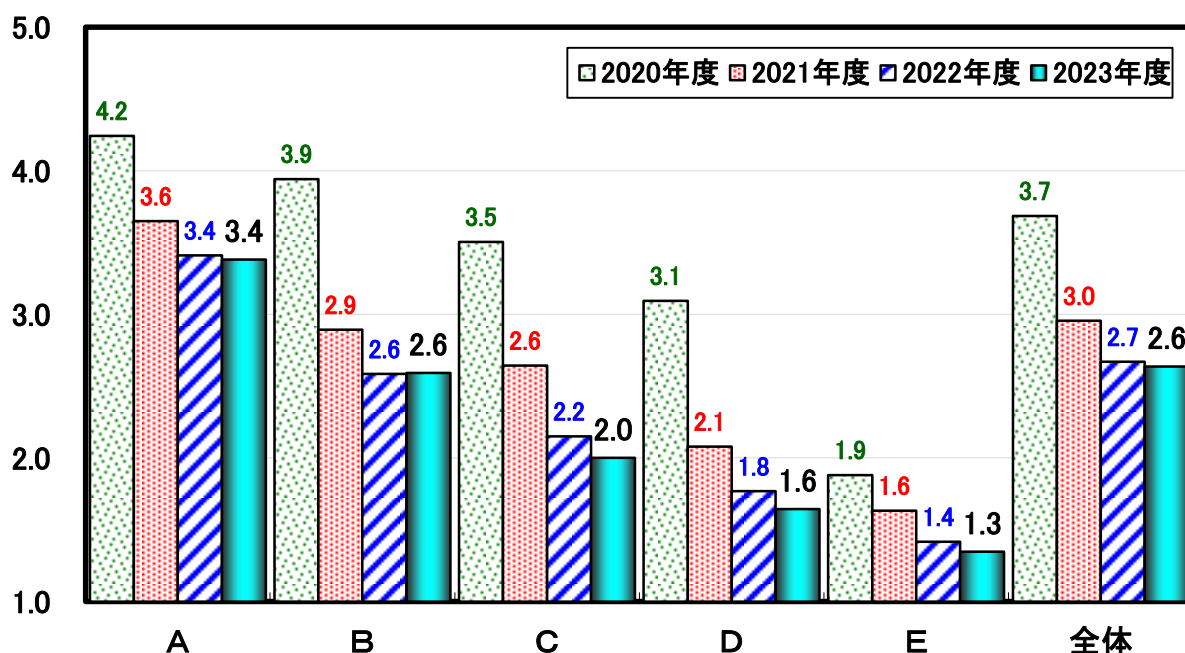


※本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

## ◎模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系は、A・Bグループは前年度と同倍率、Cグループ以下はダウン



※2023年度基準で2023年度・2022年度を分類  
2021年度は2022年度基準、2020年度は2021年度基準

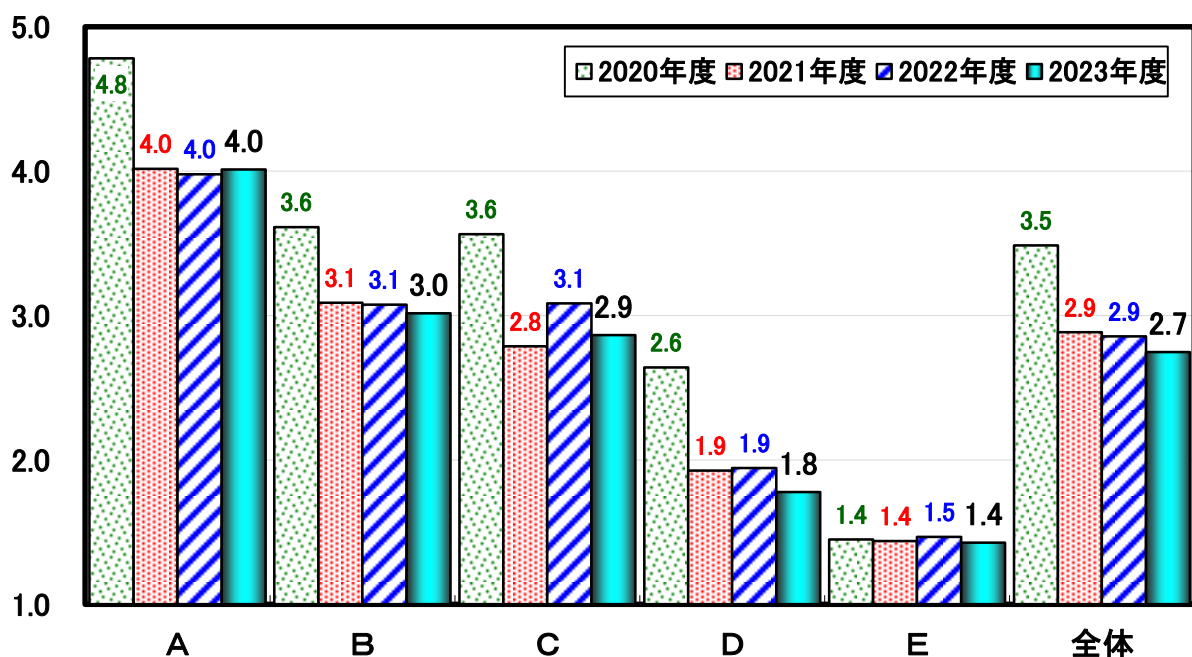
Aグループ＝③SBマーク判定Bライン65以上  
Bグループ＝③SBマーク判定Bライン60以上65未満  
Cグループ＝③SBマーク判定Bライン55以上60未満  
Dグループ＝②SBマーク判定Bライン50以上55未満  
Eグループ＝②SBマーク判定Bライン50未満

受験者数、合格者数のいずれも判明している募集区分について、学部単位(一般方式と共通テスト利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセ共通テスト模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して4か年分を示したのが上のグラフです。

文系は、全体では2.7倍から2.6倍と0.1ポイントダウンしており、競争の緩和が続いています。グループ別では、A・Bグループは前年度と同倍率、C～Eグループは0.1～0.2ポイントダウンしておりCグループ以下で競争が緩和しています。特に中間層のCグループは、3年間で3.5倍から2.0倍と1.5ポイントダウンしており、文系で最も競争が緩和しているのがわかります。一方で、Eグループは1.9倍から1.3倍と0.6ポイントダウンに留まっていますが、Dグループ・Eグループとも2.0倍を下回りました。

2020年度入試からコロナ禍もあり実質倍率が下がってきましたが、2023年度入試では難関大では前年度の難易度を維持し、Cグループ以下では更なる競争の緩和がうかがえます。

## □理系は、Aグループは3年間同倍率、Bグループ以下はダウン



※2023年度基準で2023年度・2022年度を分類  
2021年度は2022年度基準、2020年度は2021年度基準

Aグループ=③SBマーク判定Bライン65以上  
Bグループ=③SBマーク判定Bライン60以上65未満  
Cグループ=③SBマーク判定Bライン55以上60未満  
Dグループ=②SBマーク判定Bライン50以上55未満  
Eグループ=②SBマーク判定Bライン50未満

理系は、全体では2.9倍から2.7倍と0.2ポイントダウンと、文系よりややダウン幅は大きく、競争は緩和しました。

グループ別では、Aグループは3年間同倍率を維持。B～Eグループは0.1～0.2ポイントダウンとなっています。一方で、Eグループは1.4倍という低い数値で、実質的には競争がほぼ無い「全入状態」だったことがわかります。

なお、Aグループは、医で補欠合格者数を発表していない大学があり、今後状況が変わる可能性があります。